

Reader's VIEW

2018 Vol.3 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎本自治体では、タブレット型PCを活用した授業方法の改善に取り組んでいます。特集を読み、担当教員の意欲や技能に差があり、学校全体の研修体制の構築が難しいと感じました。教員・生徒が「いつでも・どこでも・だれでも」使える環境をつくる必要があります。外部助成金などを導入して、一歩ずつ進めていく予定です。(千葉県)

◎ICT教育の推進に多額の予算がかかることは厳然とした事実で、教育長の理解や首長部局との折衝などが必要です。我々教育委員会は、事務局として学校現場を支えるために何を行うべきか、特集の埼玉県さいたま市教育委員会の細井博幸係長のインタビューから、多くの示唆をいただきました。(青森県)

◎特集の事例・東京都文京区のR-PDCAプロジェクトは、非常に理にかなっているものでした。教員がICTの活用方法を理解すると、自分が作成した教材にICTを取り入れる手立てを考えられます。今後は、中学生の学習成果を地域に還元するシステムを導入できれば、地域にも理解を得られ、地域連携にまで発展できると思えました。(千葉県)

◎特集の兵庫県淡路市の事例では、意欲的な教員から全校へと広げていくために、学校ではなく教員個人にスポットをあてたところが斬新でした。最新のICTに精通している管理職は、少ないと思います。専門的な知識と興味・関心のある教員には、願ってもないチャンスであり、校内に与える影響も大きいでしょう。(神奈川県)

◎「自分は、授業でICTを利活用できるのか？」と、不安に思っている教員が多いのではないのでしょうか。そうした先生方の背中を押すためにも、教育委員会が早急に、常勤のICT支援員を各校に配置すべきだと考えます。また、各校は、ICT活用のねらいとエビデンスを明確にして取り組むことが重要だと思えました。(新潟県)

◎連載「Leader's VIEW」の兵庫県尼崎市教育委員会の松本眞教育長の話が心に響きました。エビデンスを整理しつつその方法を理論化し、他校に広げやすい形にするのは見習いたい点です。また、学校だけで完結するのではなく、様々な機関と連携したり、業務を効率化したりすることが鍵になるという点にも納得しました。(岐阜県)

◎連載「データで教育を読む」を毎号楽しみにしています。今号のような教育改革の賛否について、本校の保護者にもアンケートを取ったらどうなるか、と考えさせられました。いずれにしても、「改革内容まで理解していれば賛意がより高まる」はずなので、折に触れて、学校としてもその役割を果たしていこうと思いました。(山形県)

◎連載「学力向上へのステップ」で、埼玉県羽生市教育委員会がR-PDCAサイクルを構築して、授業改善を進めている点が参考になりました。本校では、日々の授業で丁寧に指導したくても、時間数に追われて指導しきれいなのが現状です。教員の数を増やせれば児童の実態に応じた充実した指導ができると思いながら、校内の限られた教員シフトをいろいろ工夫して配置しています。(岐阜県)

◎連載「創造的働き方改革のすすめ」の妹尾昌俊氏の提案がいつも参考になります。校内で、長時間労働の是正について案が出て、最終的には二の足を踏むような意見が出て、前に進まないことがあります。そこから一歩踏み出す上での具体的な提案が示されているので、「まずは実行」という思いが強くなります。(青森県)

◎連載「近未来展望」で紹介された國學院大学の田村学教授のメッセージを読み、田村教授が教科調査官を務めておられた頃の指導を思い出しました。「知識の構造化」を通じた深い学びの実現についてや、各教科の具体的な例についても、貴誌で掲載されることを期待しています。(鳥取県)

編集後記

2019年1月に中央教育審議会が答申した働き方改革の方策では、残業時間の上限を原則月45時間、年360時間以内としました。実現には程遠いという声を多く聞く中、いかに実効性を高めていくかが今後の課題です。教育委員会や学校はもちろん、保護者や地域も巻き込み、歩調を合わせて意識改革を進めることが重要だと感じました。働き方改革に対する社会全体の関心は高く、追い風となっている今がチャンスです。一人個人としても、何ができるかを考えたいと思います。(久保木)

VIEW21 教育委員会版 2018 Vol.4 2019年3月13日発行/通巻第16号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 (株)ムレコムニケーションズ
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、高橋龍次、竹内洋平、
 筒井岳彦、南 弘幸、藤木潤一、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17